

B. 発展的目標をもった生徒の管理・指導

って道徳の認識ができる (6)
 人間を正しく導くため (5)
 どちらも社会の中で生活していく上に必要 (5)
 道徳は倫社の一部 (倫社を具体的に示したのが道徳) (3)
 社会秩序を守り正しい道を行うために道徳がある。道徳を身につける為に倫社がある (2)
 倫社は普遍的、道徳は時代的なもので、道徳が倫社に近づく、
 道徳は一般的常識をつくり、倫社は個人の考えをつくる
 倫社は人生観をつくり、人生観を正しくする為に道徳が必要
 道徳は常識的、倫社は道徳プラス知識を加えた思想
 倫社は道徳を身につけるために学ぶ
 道徳は倫社の学習の下準備
 倫社は道徳をつきつめて考えたもの
 倫社の思想の中には人間であり、人間を守るために道徳がある

2. 関連づけられていないと答えた者の場合

なぜ又はどんな点で関連づけられていないと思えますか。

倫社は人生観、社会観の手がかり、道徳は社会の規律として当然果すべきもの (5)
 道徳は一つの考えに固定しており、倫社はいろいろな思想を学び、選択できる (3)
 道徳は現実、倫社は理想 (2)
 道徳は日常生活の中で、はだで感じとり、頭で理

解するものではない。

倫社は試験の点かせぎの記憶、道徳は社会を直接的にえる

3. わからない、無回答の者の場合

倫社と「道徳」の関係を現在はどうに考えていますか。

道徳は倫社の一部、「道徳」は生活面での善悪、倫社は各人の思想 (5)
 倫社は学問的で道徳の上にある (2)
 道徳は模範的考えの教師の一方的な教えだが関連しているところもある
 関連のあるところもある、道徳は身近のことについて考え、倫社は新しい知識を学ぶ (2)
 道徳は社会習慣、倫社は道徳を考える思想 (2)
 関連がある、身近かな問題にふれ、考え、成長させる。
 社会生活で、倫社の勉強から、道徳によって秩序づけられる
 両方とも社会生活に必要、全く別な内容も含む

道徳はしつけ、倫社は思想を学ぶ (2)
 道徳は人生の基準、倫社は歴史上の思想家の考えを学ぶ (よくはわからない)
 倫社は哲学、道徳は現実
 倫社は思想の勉強
 道徳は固定し、束縛する、倫社は選択 (2)
 道徳は現在、役立つもの、倫社は古代思想
 道徳は現在の世の中に通じるだけ、倫社は超時代的 (2)

第16報 保護者の期待と親子関係

<要旨>

本報告は昭和40年から42年までの継続研究の最終報告である。内容は、I. 研究の目的と経過、II. 保護者の期待 III. 親子関係、IV. 結論からなっているが、本年度の研究を中心にまとめた。

I. 研究の目的と経過

保護者が生徒に対してどのような期待をもっているかをおさえること、更に、そのような期待をもっている保護者と生徒がどのような親子関係をもっているかを確かめることは、学校で生徒を指導する際、重要な意味をもっている。集団的な意味からも、それはひとつの出発点となる。しかし、とりわけ、個人指導の際は、それをふまえることなしには、有効な指導とはな

りえないであろうといっても過言ではない。そのような観点から、次のような研究を行ってきた、

① 保護者の生徒に対する期待の調査

高校1年の生徒の保護者に対し昭和40年11月に次のような自由記述の調査を行なった。(その結果は、本校紀要第11集、B、第4報(P. P48-54)にくわしくかかっている。)

① 御両親は高校生としてのお子様到现在どのようなことを期待しておられますか。なるべく具体的に箇条書きで1.2.3.……の番号を付して書いてください。

(a) 学習面について

(b) 生活面について

② 御両親はお子様の将来についてどのような

御期待をお持ちですか。具体的に書いてください

- (a) 人間として
- (b) 職業について

その結果にもとづいて、選択肢式の調査票を作成し昭和42年7月に中学2年生、高校1年2年の生徒の保護者を対象とした調査をした。

② 親子関係の調査

中学1年から3年までの全員に対し、昭和41年2月田研式親子関係テスト（日本文化科学社発行）を実施その結果は本校紀要第12集，B，第6報（P. P71-76）に掲載した。更にその結果を追跡し，比較検討するため，昭和42年2月に，中学1年と中学3年に対して，同様のテストを実施した。

③ その他の調査

以上の2つの調査結果を側面から裏づけ考察するために，その他に

- (ア) 田研式道徳性診断テストを中学と高校の全学年に対して（昭和40年11月），
- (イ) Y・Gテスト（矢田部・ギルフォード人格検査）
- (ウ) S・C・Tテスト（文章完成法）
- (エ) A・S・Sテスト（学習適応テスト）

の3つを中学2年・高校1年・2年に対して（昭和42年5月）実施した。

以下は，その分析と検討のまとめである。

II. 保護者はどのような期待をもっているか

① 将来の進路

中学2年男子の父兄の80%，高1男子の父兄86%，高2男子の父兄87%が「国立・一流・名大」クラスの進路を選ばせたいと願っている。

女子生徒の場合，中学2年の31%，高校1年の31%高校2年の50%と，その割合は多少減少し，代りに，「本人の希望・能力相応」というのがそれぞれ47%，38%，31%となり，「能力があれば進学させたい」がそれぞれ22%，31%，19%となっている。

② 将来の職業

ところが，職業となると，「本人の希望・適性」「社会に役立つ」「個性・能力に応じた」という一群と，「時代に合った，将来性・安定度の高い」という一群と比較すると，どの学年でも70～90%が前者を選び，後者を選ぶのは10～30%しかない。これは注意すべき現象であると思う。

③ 現在の生活

どの学年でもベスト1・2位を占めるのは「健康な

からだ」と「良友」である。女子の場合「素直な心」というのが高いのが目につく。

④ 将来の人間像

「明るくて健全」で「自主独立の精神」をもち「正しい批判力と判断力」をもった人間になって欲しいというのが共通した願いのようである。女子の場合「幸福な家庭人になって欲しい」というのがめにつくのも，当然であろう。

III. 親子関係はどうなっているか

① その一般的傾向

親子関係については，テストが中学生までしか適用できないことと，高校生についてはその占める直接的なウェイトが中学生ほどではないということから，中学生のみを対象として行なった。その結果からおおよそ次のようなことがいえるように思われる。

ア. 親の方が子よりも気をもみ，子の方は案外のみぎりしているものがやや多いようである。

イ. 中2の頃が，親子関係が緊張するひとつのピークであるように思われる。

ウ. 親よりも子どもの方が〈危険度〉が高いものは，成績面においても，問題があるように思われる。

エ. 親・子とも危険度が高いものは，生徒指導上においても，問題性をはらみ，学校で先生から注意される回数も高い。

オ. 一般的に〈危険度〉が高いのは，父は厳格型・拒否型がもっとも多く，ついで溺愛型が多い。それに対して，母の方では，不安型・溺愛型が多く，次いで期待型が多い。

② 道徳性診断テストを通して見た〈家庭〉

道徳性診断テストの各領域ごとの診断値をみてみると，家庭の領域が中学と高校とでは，とくに大きちがっている，これは，高校生の青年期的特長と，ひとつには受験勉強をめぐる家庭の期待と重圧との関係も原因になっているのではなからうかと思われる。

③ 親子関係と問題児

親子関係テストの結果，危険領域に極度にはみだしている生徒を（末尾にa～fとして例をかかげた）6名選んで，そのYG，SCT，ASSのテスト結果を参照し，更にその指導要録に記入された行動評価をしらべてみると，次のようなことがいえる。

〈親子関係〉

父との関係が厳格・溺愛・不安・期待・干渉などの領域で危険である。

母との関係は・不安・期待・干渉・拒否・厳格などの領域で危険である。

B. 発展的目標をもった生徒の管理・指導

<Y G>

情緒的不安定・主観的・社会的不適応のタイプは一般的にみられ、そこに外向的・衝動的な方向か、非活動的・非主導の方向かが加わっている。

<S C T>

父母の項に全然記入がないか、きびしいか、テストの結果をとてても気にするか、逆に甘やかしすぎの傾向がうかがわれる。

<A S S>

家庭環境—外面的にか、その診断値が他の生徒よりも、悪いようである。

<行動評価>

Bの評価をもらっている者が大部分である。A S Sの結果とほぼ対応するような感もする。

㉞ 保護者は、一般的にみた場合、現年の生活や人間像については、ほぼ常識的で健全な期待をもっている。職業についても、その大半が中産階級としての「サラリーマンか技術者」といった期待像をもっている。しかし、大学については、子弟の能力をこえて、国立・有名大学への願望をもっているようにみえる。

㉟ 子供は、親の期待や不安の中で、比較的のんびりとすごしているようである。

㊱ その中で、厳格すぎ、期待しすぎ、又は甘やかしすぎの——とくに父や母の情緒的不安や不一致が子どもとの関係を危険領域にまでみちびいてしまうものもある。

㊲ 中学時代までに、その関係を健康に回復してしまふことが望ましい。

㊳ 高校においては、内面的自我の強化と独立、友人関係の健全化において、それを善くしていく努力が必要であろう。 (中尾・佐藤)

IV. 結 論

以上のことから、結論として次のようなことがいえるように思われる。

生徒	親子関係のタイプ	気質傾向 (Y G)	S C T 文 例 (「 」内は要約)	行動評価
a	父—厳格, 溺愛 母—期待, 不安	非活動的 非主導的	父—やさしいけど、おこるとこわい。 母—やさしいけどこわい。	A…2 B…11
b	父—期待, 干渉 母—拒否, 期待, 不安	主観的 情緒不安定	もしも私が英語を100点とったら母にどんなによろこぶでしょう。	A…4 B…9
c	父—厳格 母—干渉, 不安	情緒不安定, 衝動的 外向, 社会的不適応	父母についての記入なし (抵抗感?)	A…5 B…8
d	父—溺愛 母—期待, 干渉, 不安	主観的, のんき 情緒不安定	小さい時私はわがままで手がつけられなかった。 父—「やさしい」、母—「やかましいのできらい」	A…6 B…7
e	父—厳格, 溺愛 母—不安, 干渉	ノーマル型ただし 外向性強し	父—よく勉強しろといひす。 母—やさしい時やこわい時やいろいろあります。	A…8 B…5
f	父—厳格, 不安 母—不安, 厳格	社会的不適応 衝動的外向	もしも私が先生ならばげしくごいてやりたい。 父—記入なし, 母—とてもやさしい。	A…10 B…2

第 17 報 社会人としての生徒のつけ

「一つの小さなころみ」

この数年来、本校では中学生の人間としての成長を願うしつけの基盤を「少くとも他人に迷惑をかける行為はしない。」ことにおいて、H・Rを中心に、教室、生徒ともに努力を続けている。たまたま、研究室が中学一年のH・Rと隣り合っていることから、指導部の

末席をけがす者として、私も毎年入学早々のまだ制服のなじまない新入生に「中学生になったのを機会に人の迷惑になることをやめよう、皆のためになることをしようではないか。」と呼びかけてきた。生徒たちはいくらか面倒な感じもするが、それが大人に一步近ず